

NO. 490

令和元年度
三田市人権ポスター入選作品



三田小学校4年
川岸 心桜さん

人権さんだ

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。
問い合わせ＝福祉共生部共生社会推進室人権推進課
(559-5148 FAX562-1294 e メールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)

そのままの
あなたでいいよと背中おし、
自ら歩む力育む、
地域の輪。
ゆりのき台
かがわ 洋子さん

令和元年度
三田市人権標語優秀賞作品

「共生社会づくりフォーラム」～障害のある人と共に～

「障害のある人」が、他の人との平等をもとに、どこで誰と暮らしたいかを選択できます」と書かれています。障害のある人が主張することを遠慮しなければならぬ現実があります。今回の三田市の事業も、「施設に入ってよかったね」で終わりにせず、これからの残された人生をどのように充実させていけるのかということを考えることが大切なのだと思います。

障害のある人が遠慮しなければならない社会



【イラスト:ゆきみん】

アドバイザー
玉木 幸則さん
(西宮市社会福祉協議会)



▲パネルディスカッションの様子

「テーマ」
「みんなが安心して暮らせる共生のまち」

昨年12月7日に開催された「人権と共生社会を考える市民のつどい」においてパネルディスカッションを行いました。今号は、その内容を参加者のメッセージとして紹介します。

国連の「障害者権利条約」(以下、「権利条約」)のなかに、「障害者に関する社会全体の意識を向上させる」と書いてあります。昨年、三田市で判明した障害者虐待事件で何が問題かというところ、「障害のある本人の意思は無視・軽視され、家族の意思が本人の意思のように扱われていた」という

ことです。障害のある人は、いろいろな理由をつけて、学校や住む場所などを決められてしまうことが多くあります。しかし、権利条約には、「障害のある人が、他の人との平等をもとに、どこで誰と暮らしたいかを選択できます」と書かれています。障害のある人が主張することを遠慮しなければならぬ現実があります。今回の三田市の事業も、「施設に入ってよかったね」で終わりにせず、これからの残された人生をどのように充実させていけるのかということを考えることが大切なのだと思います。

合理的な配慮とは調整すること
2016年に、「障害者差別解消法」が制定されました。これは、共に生きていくための社会をつくっていくための法律です。この法律では、「障害のある人から配慮を求められたら、負担になり過ぎない範囲で、必要な合理的な配慮を行う」と書いてあります。合理的な配慮とは、障害のある人がお願いするものではなく、自分らしく生きていくために、まっとうな権利を主張することです。だから私は、「配慮」という言葉自体が対等ではなく「調整」という言葉のほうがしっくりきます。その人らしく生きやすくしていくためには、コミュニケーションによる調整が必要であり、対話が大切だと思います。

完全な共に生きていく社会をつくっていくことフルインクルージョン
私が貫いて目ざしているのは、「完全な共に生きていく社会をつくっていくこと」これを私は「フル・インクルージョン」と言っています。誰もが主体的に主張できる社会をどのようにつくっていくかを考え続けていきたいと思っています。

私の長男は、自閉的傾向と知的障害を併せ持っています。初めて出会う人は知的障害者であることとは分かりません。息子は、考えていることを言葉で伝えたり、長文での説明や話し言葉を理解したりすることが苦手です。その特性を正しく理解してくれる支援者の手助けがあれば、一人でも生きてい

偏見の目を良き理解者の目に



【イラスト:ゆきみん】

パネリスト
三木 尚美さん
(さんだ知的障害啓発隊代表)

人が生きていくということは、一人一人の問題として考えていく必要があつて、「最近、あの兄ちゃん見てないけど病気がしたんやろか」と気づいている人の輪を広げていくことが大事だと思っています。



▲疑似体験の様子

より多くの人が体験することで
障害という暗く思われがちですが、私はこのプログラムを楽しく会話しながら体験していきけるようなものにしていきたいです。この疑似体験プログラムをきっかけに、障害についての理解が進むことを願っています。より多くの人が体験することで、三田のまちが誰にもやさしい共生のまちになっていくことを夢見ながら頑張っていきたいと思っています。

私は、見ただけでは分かりにくい知的障害、自閉症、発達障害の人たちの特性を多くの人たちに知ってもらいたいと思い、「はあく」とポкетト(さんだ知的障害啓発隊)の活動を昨年からは本格的に始めました。ここでは、自閉症の子を持つ親やヘルパーさんなどを対象に体験プログラムを実施しています。障害のある人の不自由さを疑似的に体験するもので、参加者の中には戸惑いもあります。周囲の人の言葉のかけ方によって気持ちが変わることを実感してもらいます。私は、この活動を通じて障害に対する偏見の目を良き理解者の目に変えていきたいと思っています。

けると感じるので、支援をしてくれる人が一人でも増えてくれることを願っています。